

## 今日のキーワード 『ドル安』か円高か？

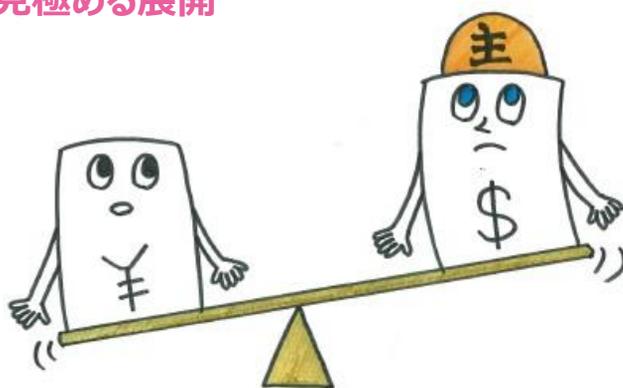
ドル円相場は7月11日の1米ドル114.47円から緩やかに『ドル安』・円高が進んでいます。現在は、米国の動向が主な要因となっていることから、『ドル安』が進んでいると考えられます。今後は一時的に110円を下回る『ドル安』・円高が進む場面もありそうです。ただ、米国経済の成長ペースは年末から来年にかけて持ち直すと見られ、景気後退を懸念する必要はなく、いずれ『ドル安』に修正が入り、ドル高・円安に回帰すると考えられます。

### ポイント1 『ドル安』の流れが継続中

- ドル円相場は、8月1日に1米ドル110.14円と、7月11日の114.47円から緩やかに『ドル安』・円高が進んでいます。これは、①ロシア疑惑の再浮上やトランプ政権の人事の混乱、政策の取り組みの遅れ、②米国のインフレ率の低下など弱めの経済指標を受けた利上げ期待の後退、などが背景にあると考えられます。
- 特に、米連邦公開市場委員会（FOMC）は7月26日に公表した声明で、バランスシートの縮小開始の前倒しを示唆する一方、物価の見通しを小幅に下方修正しました。市場はこれを米金融当局は利上げに慎重と解釈し、『ドル安』・円高が進みました。足元のドル円相場の動きは、米国の動向が主な要因となっているほか、ドルが他通貨に対しても広く下落していることから、『ドル安』が進んでいると考えることができます。

### ポイント2 引き続き経済指標の強弱を見極める展開

- ドル円相場にとって、今後の注目材料は経済指標です。米連邦準備制度理事会（FRB）のバランスシートの縮小が発表されるタイミングは9月と思われますが、市場では織り込みが進んでおり、米金利の上昇要因とはなりにくく考えられます。こうした中、米国の経済指標の改善度合いや物価の持ち直しが進むかなど、引き続き経済指標の強弱を見極める展開が続くそうです。



### 今後の展開 いずれ『ドル安』に修正が入り、ドル高・円安へ

- 米国経済は、昨年からの循環的な回復が一服する局面にあると考えられます。そのため、物価の伸び悩みなど、比較的弱めの経済指標がしばらく続く可能性があり、一時的に1米ドル110円を下回る『ドル安』・円高が進む場面もありそうです。ただ、米国経済の成長ペースは年末から来年にかけて持ち直すと見られ、景気後退を懸念する必要はないと考えられることから、いずれ行き過ぎた『ドル安』に修正が入り、その後はドル高・円安に回帰すると考えられます。

ここも  
チェック! 2017年7月31日 『トランプ大統領』の米国株式市場への影響  
2017年7月27日 米国の金融政策 (2017年7月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。